

高輪築堤出土！

区民向けの見学会開催
令和3年3月21日に高輪築堤遺跡の見学会を実施します。2月24日必着。
詳しくは、『広報みなと』2月11日号をご覧ください

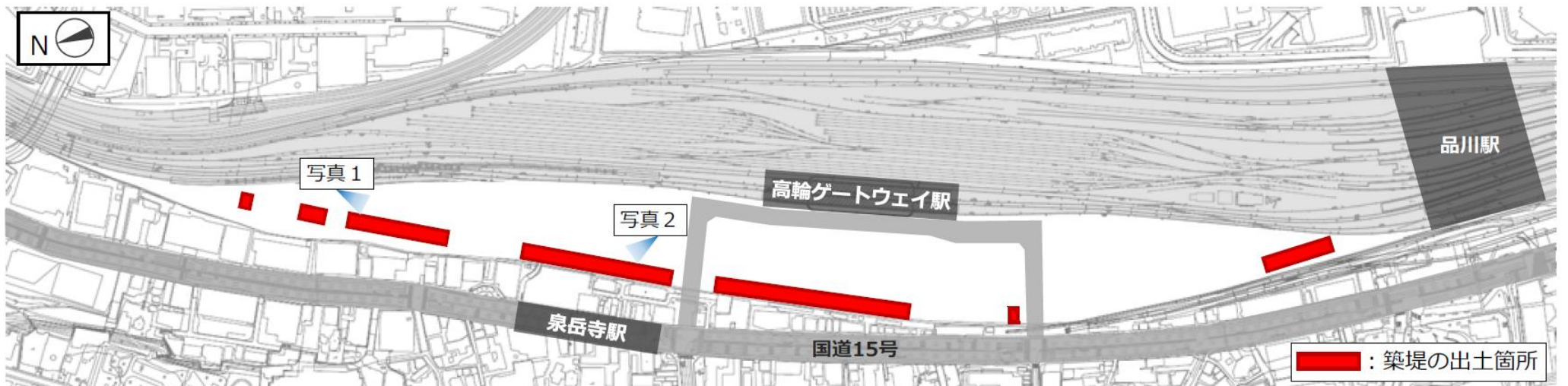
○高輪築堤とは

高輪築堤は、明治5（1872）年に我が国初の鉄道が開業した際に、海上に線路を敷設するために築かれた鉄道構造物です。明治政府は、明治2（1869）年に、首都東京と開港場であった横浜を結ぶ約29kmの鉄道建設を決定しました。しかし、高輪周辺の土地は国防上必要であるとの理由で兵部省が鉄道当局への引き渡しを拒んだため、本芝から高輪海岸を経て品川停車場に至るまでの約2.7kmの区間は海上に築堤を建造し、その築堤の上に列車を走らせることとしました。

工事はイギリス人技師エドモンド・モレルの指導のもとで民部

省鉄道掛のちに工部省鉄道寮が担当し、石垣の石材には台場や高輪海岸の石垣等が使用されています。一度埋め立てた土砂が波に流されて築堤が崩壊するなど難工事となり、完成したのは正式開業直前の明治5（1872）年9月のことでした。今回発見された第7橋梁を含む第5～第8の4つの橋梁は、この地域の住民が漁業や商売品輸送のための舟を出入りさせられるように設置されたものです。

高輪築堤は、我が国の在来技術と西洋技術の折衷をみることでできる貴重な鉄道構造物といえます。



今後も発掘は続けられていく予定で、未着手の場所からも出てくる可能性が高いです。



写真1 海側の石垣。写真右側築堤の上部にはバラストが残されています。



写真2 4か所に水路のための橋脚が作られています。



浮世絵にも同様の橋脚が描かれていることが確認できます。
三代広重「東京品川海辺蒸気車鉄道之真景」



明治40年頃の田町付近の写真。石積みが確認できます。